2019年10月01日 中日新聞 朝刊 18頁

紙上 診察室

栗田 賢一さん

9歳の子 下唇に膨らみ

唾液がたまる粘液嚢胞か

Q 一年以上前から、九歳の子どもの下唇の一部がぷくっと膨らんでいます。まるで小さい芋虫がのっているみたいです。痛みはないようですが心配です。

（男性・50歳）

＊

A 一番疑われる病気は粘液嚢胞（のうほう）です。誤って唇の粘膜をかむなどして唾液を出す口唇腺の出口（排せつ管）がふさがってしまい、唾液が粘膜下にたまってしまうことによって起こります。

半球状に膨れますが、粘膜は薄いので、再びそこをかむなどすると、すぐにつぶれます。しかし、唾液の出口がふさがっているので、何度も腫れとつぶれを繰り返し、次第に硬くなってしまいます。「芋虫のようだ」という表現は、この状態を示していると思われます。

九歳ぐらいの年齢は、前歯の永久歯が生えてきて、かみ合わせが悪くなる時期。下唇をかみやすいため、この病気が起きやすくなるのです。

痛みがないこともこの病気の特徴で、大きさは通常一センチ以下です。腫れはじめの状態を思い出してみてください。もし、半球状で軟らかかったならば、粘液嚢胞で間違いないでしょう。

その他にもいろいろな病気は考えられますが、悪性の病気であれば一年間でもっと大きくなりますので、その心配はほぼないと思います。下唇にこのような腫れがあるとかみづらく、食事もうまくとれません。

病気の最終診断は腫れている部分を切除し、顕微鏡でその組織を確認する必要があります。放置せず、早めに口腔（こうくう）外科専門病院を受診し、専門医に見てもらった方が良いでしょう。

（愛知学院大歯学部長顎口腔外科学講座主任教授）

紙上診察室への投稿を募集します。〒住所、氏名、年齢、電話番号（紙面では匿名）を書き、右下のあて先へ。

（c）.中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています